

## 令和5年度 1学年「特別講座」授業報告

◎ 4月20日(木)  
「オリエンテーション」

担当:本校教員

1. 総合ヒューマン類型主任の挨拶
2. 45回生学年主任の挨拶
3. オリエンテーション
  - ◇Humanとは? Humanityとは?
  - ◇特別講座では、どんなことをするか?
  - ◇対人ヒューマンサービスの専門技術職に要求される能力、資質について
  - ◇受講するにあたっての留意事項、特別講座の年間計画、内容について
  - ◇現在の進路希望について

《講義の様子》



《生徒の意気込み》

私は将来、子どもと関わる仕事をしたいと考え、本校において人との関わり方や職場の雰囲気などを、ヒューマン基礎の授業等から積極的に学んでいきたいと考えています。手話や育児体験、介護のような普段の生活では経験できないことを通して、色々な世代の人とのコミュニケーションの取り方を身に付け、自分の強みにしていきます。保護者から信頼され、もちろん子供からも好かれ、相手を笑顔にできるような人になっていけるよう、しっかり頑張っていきます。

たくさんの人とコミュニケーションを取り、人と関わることに慣れていこうと考えています。看護師は患者さんを不快にさせない、不安にさせないことも仕事の一つであるため、できるだけ多くの人と関係を築いていこうと思います。また、チームワークも現場では大切だと思うので、仲間が困っている時に手を差し伸べ支えられるように、心配りも意識していきます。父曰く、看護・医療の現場は厳しく、心が折れることも珍しくないそうなので、自分に厳しく甘えた行動をとらないようにしたいと思います。少しでも夢の実現に近づいていくために、総合ヒューマン類型の活動の1回1回を自分のものにします。

将来の夢に向けて、「保育」の分野について学びながら、「看護・医療・福祉」の分野にも目を向けて学んでいきたいと思っています。先生が仰っていたように、仕事はどこかで必ず繋がっていると思うので、「保育」の分野を優先して学ぶというより、全ての分野についてしっかり学びたいと思います。また、大学の先生に来ていただく機会や、私たちが仕事の場所を見学させていただく機会がたくさんあると思うので、そのような場面ではたくさんの事を講師の方から吸収していきたいと思っています。

これから私はスポーツトレーナーになるための専門的な知識はもちろん、異なる世代の人とコミュニケーションをとる力を身に付けたいと思います。大学見学や特別講座・ヒューマン基礎で色々な方のお話を聞き、交流ができるので、挨拶や礼儀を大切にしていきたいと思っています。小さなことでも「ありがとうございます」など自分から積極的に挨拶をしていきます。そして、ヒューマン類型で必要とされる積極性・気配り・明るさを意識して、今よりももっとコミュニケーションをとる力を身に付けたいと思います。何事にも失敗を恐れずに全力でチャレンジします。

◎ 4月27日(木)

「保育の仕事について」

担当: 甲子園短期大学

藤原 牧子先生

- ◇保育サービスを行う施設とは・・・保育所・幼稚園・認定こども園など
- ◇保育の重要性・・・子どもの人格形成の基礎を作る時期
- ◇保育者の役割・・・遊びを通して教育し、安心感や達成感を与えること

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

私は保育の仕事について自分から詳しく調べたことがなかったので、今回の特別講座で色々なことを初めて学びました。例えば、赤ちゃんが保育所に入ることができるのは生後 57 日目からであること、今年から子ども家庭庁ができたこと、保育所や認定こども園では子供を 0 歳から預けることができるけれど、幼稚園は満 3 歳からしか預けることができないことなどです。そして、保育士の仕事は子どもが誕生してから小学校入学までの期間で、「人格形成の基礎を作る時期」であると学びました。また、保育士の仕事は大きく分けて、生活の中で人を信頼する心を育てることを目的とした養護（見守り育てる）、遊びを通して自分から知ろうとする心を育てる教育（探究心・思考力を育てる）だと理解することが出来ました。今日学んだことを、将来子どもを育てる時や、子どもと関わる仕事に就いた時に活かしていきたいと思いました。

今回の授業で私は学んだことが二つあります。一つ目は、保育所や認定こども園、幼稚園などは「人格形成の基礎を作る時期」と言われていることです。そこで私は、子どもの意思や行動を受け入れてあげることが一番大切だと考えました。遊びの中でも、ただ遊ぶだけではなく、その遊びからどのような力を得ることが出来るのか、何の意味があるのかを考えて一緒に遊ぶことが大切だと思いました。二つ目は、植物や野菜の栽培を通して、命の循環などを教えていることです。栽培を通して、色々な野菜に興味を持ったり、大切に育てていく中で思いやりの心を育てたり、食べ物をいただくことへの感謝の気持ちなどを先生たちは子供に教えているということを知りました。

年々、共働き家庭が主流になっているため、保育に関わる仕事がより忙しく大変であるという現状は少し理解していましたが、その保育に関わる仕事というのは具体的にどのような職業なのか、また保育の仕事をするにあたってどのようなことに気を付けているのかなど、様々な新しい知識を身に付けることが出来たととても良い機会でした。保育士や幼稚園の先生は、中学校や高等学校の教諭とは違い、普段の生活を重点的に見てあげる必要があります。さらに、「人間形成の基礎を作る時期」に子どもを預かるので、責任感をもって活動しなければならない職業だと改めて思いました。そして、子どもが初めて親から離れて生活する場もあるので、子どもに家族以外の人と関わることの大切さを教えるということが重要だと考えていましたが、物事に取り組み成功した時の達成感や、友だちと遊んだ楽しさなどを考えて様々な遊びを提案していると聞き、「なるほど」と思いました。

◎ 5月22日(月)

「園田学園女子大学 施設見学および体験学習」

担当: 園田学園女子大学

大河内 敦史先生

◇大学学食ランチ体験

◇看護分野・保育教育分野の講義

◇園田学園幼稚園見学

◇大学・学科説明

《講義の様子》



《生徒の感想》

今回、園田学園女子大学で体験学習をして、とても良い勉強ができました。まず、詳しく看護の仕事について話を聞き、看護の仕事にはたくさんの種類があり、それぞれの仕事内容が違うことが分かりました。しかし、共通点もあり、それは相手の気持ちを考えて行動し、声をかけ、笑顔を絶やさないことが大切だということです。次に、実際に赤ちゃんの人形を用いた体験学習をさせてもらった時にすごく重くて、お母さんは毎日この重さの赤ちゃんを抱いて家の仕事をしていると気づき、改めて感謝しようと思いました。また、赤ちゃんはすごく繊細で傷つきやすいので、頭の大きさを測るにしても身長を測るにしても、慎重かつ正確に測ることが必要で、大変だと感じました。赤ちゃんの服についているタグが外側についていることなども教えてくださり、細かい所まで工夫がしてあって驚きました。貴重な時間を過ごすことができました。

園田学園女子大学のコースの中に、私自身の将来の夢である保育士の仕事について学べるコースがあることを知り、大変興味を持つことができました。また保育士になるための資格を取得できることや、保育士に必要なピアノを練習することができることに魅力を感じました、幼い子供たちと幼稚園で30分という短い時間を過ごしましたが、折り紙で作ったおもちゃをプレゼントしてくれたり、名前を覚えて先生と言ってくれたり、本当にうれしかったです。私が驚いたことは、2階に続く階段の高さが幼い子どもに合わせて低くなっていること、こけないように安全面を考えて手すりを下の方につけてあることも、工夫されていてすごいいと感じました。実際にたくさん子どもたちと遊んだりコミュニケーションをとったりすることによって、子どもたちが笑顔になってくれたことがうれしかったです。改めて保育士になりたいと思いました。

今回、園田学園女子大学に行き、保育についてたくさんのことを学びました。まず、大学の学食で500円分の昼食を食べましたが、安くておいしかったので驚きました。次に、大学附属の幼稚園に行きました。幼稚園では階段や手すり、イスなどすべてのものが、子どもが使いやすい小さめのサイズでした。入口のすぐ横に、今日の昼食メニューが実際に置いてあったので、少しの工夫で子どもたちが楽しめるようにしてあることがすごいと思いました。子どもたちがいるクラスに入るととても賑やかで、明るい気持ちになりました。一人ひとり自己紹介をして、子どもたちと遊び始めると、たくさん私の名前を読んでくれて嬉しかったです。私が絵を描いてプレゼントしたら、折り紙で作ったハートをプレゼントしてくれました。実際に子どもたちとどのように接したら良いのかを学ぶことができました。大学の講義では、私が一番興味のある幼児教育コースで全員が免許の資格を取得することができることを知りました。就職率が5年連続100%ということに驚きました。最後に、伊丹西高校出身の先輩の方に大学について説明していただき、親近感がわき、大学に興味を持つことができました。

◎ 6月15日(木)

「初等教育(小学校)の仕事について」

担当: 関西国際大学 教育学部

大平 誠也先生

◇ 小学校の先生の仕事のイメージ

◇ 小学校の先生の1日、1週間、仕事内容について

◇ 小学校教諭にはどんな人が向いている？

◇ 小学校教諭になるには

《講義の様子》



《生徒の感想》

今回は初等教育の仕事について、今まで知らなかったたくさんのことを学びました。まず、近年の教員希望者がとても少なくなっているということに驚きました。私のイメージの教員の仕事は、たくさんの人と関わり、たくさんの子供たちに教えるといった、とてもやりがいのあるものでした。しかし、実際には、とても忙しく、長時間労働といった大変な面があることを学びました。しかし、「大変」な仕事は教員だけではなく、どんな仕事でも当てはまるので、「仕事をする」ということがどれほど大変なのかということを経験して以上と感じることができました。また、今このように字を書くことができるのも、小学校の時に先生に教えていただいたおかげだと思うので、たくさんのことでお世話になったと気づくことができました。

今日、大平先生から小学校の先生の話聞いて、自分が思っていた以上に大変な仕事だと知ることができました。小学校の先生の影響が一番大きいという話を聞いて、私も先生との思い出は小学校が一番多いと改めて感じました。9割苦労、1割感動という言葉聞いて、本当に先生は楽しい職業なのか、と疑問に思いました。また、「優しい人は先生になれる」と聞いて、この言葉は先生に限らず、他の仕事にも通用することだと思いました。先生と私が目指している看護師は、一見全然違う仕事に見えるけれど、人が誰かのために働く時はその人に必ず寄り添うことが大切だと考えることができました。

小学校の先生は中学校、高校の先生とは違い、すべての教科を教えなければならない、また違う大変さがあると感じました。私は中学2年生の時のトライやる・ウィークで小学校に行きました。そこで、授業準備や環境整備、校内の備品確認をして、児童に見えない仕事をたくさんしました。時間もかかるし、ミスも許されなくて、それだけでも大変だったのに、それ以上のことをしている先生方はすごいと思いました。そして、しんどい顔をせずに、授業だけでなく、休み時間も遊んでくれた先生方に、改めて感謝しなければならなかったと思います。お話を聞く中で、一番印象に残った言葉は、「しんどいことはどの職業にもある。しんどいことにも耐えられるのは、その仕事の魅力に触れた時」というものです。世の中にはしんどい仕事はたくさんあるけれど、その分、感動や楽しいこともあるので、色々な職業に目を向けていきたいです。

私が現在目標としている職業は幼稚園教諭ですが、本日お話しいただいた小学校教諭という職業は、子どもが幼稚園の次に進む学習の場であり、「教諭」という共通点があり、どちらも教育をしていく職業なので、興味深い話がたくさんありました。特に印象に残っていて、同時にこれからも大事にしていきたいと思ったことが、「優しい人になる」ということです。「優」という感じは、人を表すにんべんと、「憂」という漢字でできていることから、憂いの時に寄り添ってあげられる人、という意味でもあると説明していただき、とても感動しました。教師が子どもたちの悩みや憂いに気づき、寄り添ってあげられると、子どもたちはとても安心すると思います。だからこそ、高校生の今のうちから視野を広げ、気遣いを意識し、「優しい人」になれるように成長していきたいと強く思いました。

◎ 7月7日(金)

「甲子園短期大学 大学見学・授業体験」

担当: 甲子園短期大学

森井 裕史先生 他

◇甲子園短期大学 生活環境学科 授業体験 ◇生活実習ハウス介護実習・高齢者の体の体験

《講義・実習の様子》



《生徒の感想》

今回は甲子園短期大学へ行き、初めて介護について詳しく学びました。介護が必要な対象者は高齢者だけでなく、子どもや障がい者の方、自分自身で安心・安全・快適な生活を送ることができない人も入るそうです。また、介護士になるには資格をたくさん取得しなければならないことも分かりました。介護には、看護や保育の要素もあると聞き、驚きました。また、体験学習では、介護の仕方やお風呂の入れ方などを体験しました。介護に大切なこととして、「介護士の意思で介護をするのではなく、利用者の意思が大切」と学びました。このことは看護師の仕事においても当たり前のことだと思いました。違う職業ですが、違う職業だからこそ似ているところがたくさんあるということが分かり、講義を聞いていて面白かったです。

総合ヒューマン類型では様々な分野の専門的知識を身に付けることができますが、福祉に関する知識はあまりない状態でした。しかし、今までに学んだ介護や保育などともつながりがあり、福祉についてもより詳しく学びたいと思う校外学習となりました。講義では具体的な福祉の仕事というものを教えていただきました。よりよい社会にしていけるために、「誰もが福祉の気持ちを持っていなければならない」というお話を聞いて、仕事ができなくても福祉の大切さをしっかりと学び、その学びを持っておくことが重要だと知ることができました。体験では体に錘をつけて歩いてみたりしました。とても短い距離を歩くだけなのに体への負担がとても大きく、一歩が本当に重かったです。高齢者の方の体の状態を体験することで、高齢者の大変さを改めて知り、支えてあげたいという気持ちも同時に芽生えました。

今回の介護体験では、高齢者の方を少しの工夫で力を使わなくても立ち上がらせる方法を学び、驚きました。何事にも少し頭を使って考えることが大切だと思いました。高齢者体験では、いつもより体が重く、腰の曲がった状態で歩くことは辛く、すぐに腰が痛くなりました。この体験を通して、高齢者への対応についてすごく考えさせられました。バスや電車などで高齢者の方を見かけたら、恥ずかしがらずに声をかけて席を譲ろうと決めました。今回の特別講義では、福祉への理解を深めるだけでなく、新たな発見が多かったと思うので、身に付けた知識を忘れないようにしたいです。

今回は甲子園短期大学に直接行き、福祉についてたくさんの方の事を学ぶことができました。福祉の仕事を行うことは、その人のことをしっかりと知らなければならず、とても大変な仕事だということを知ることができた。福祉に対する考え方がとても変わりました。講義の後は、要介護者を座っている状態から立たせる実習を行いました。できるだけ簡単な動きで人を立たせるということは想像より難しく苦戦しました。また、「あくまで介護者は介護をするだけなので、自分の意思で立つということをしてもらわなければならない。」ということを知り、すべて介護者が行ってしまうことは逆に良くないことだと気づきました。さらに、高齢者の体はどのようなものかという体験をしました。2、3分廊下を歩いただけで腰が痛くなり、とても汗をかいたので、外で高齢者の方を見かけることがあったら、すすんで声をかけていきたいと思いました。

◎ 8月30日(水)

「森ノ宮医療大学 施設見学」

担当:森ノ宮医療大学

亀井 朋先生 他

◇看護医療系分野別ガイダンス ◇施設見学(キャンパスツアー) ◇森ノ宮医療大学 紹介

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

私は、現代医療の現場について、これまでは医師が指示したことを他の医療者がこなす、つまり医師がトップである仕事だとずっと思いこんでいました。しかし、今回の講義を受けたことで、職種各々が持っている専門的知識を出し合い、意見を交わすことで患者さんにとってより良い治療を見つけ出すことこそが、チーム医療の目的となっていると分かりました。そのためには、チーム医療に携わるすべての職種の人が個々の専門知識・技術を高める必要があると思いました。これまで私は、医療者は理系科目だけを頑張っていれば良いと思っていました。しかし、理系科目と文系科目のどちらもバランス良く勉強する必要があると、先輩の話を聞いて良くわかりました。

色々な職種があるからこそ、患者さんの要求に答えることができ、患者さんにとって安心して治療を受けることができるということ、それがチーム医療の目指す形だと感じました。また、医療者として最も大切なことは、常に明るく優しく患者さんに接することだと分かりました。

今までの講義ではここまで詳しく医療のことを学ぶ機会はなかったので、理解を深めることができ良かったです。今日の校外学習に行くまで、看護や理学療法など医療系の職業はとても忙しそうで、仕事はもちろん学習の段階でもとても大変だというイメージがありました。講義を聞いてそのイメージが変わったわけではありませんが、同じ医療系でも学ぶ内容が全く違い、それぞれの魅力がありました。森ノ宮医療大学では、それぞれの仕事に合った学部と学科が一つの大学にそろっているので、自分が目指す職業はもちろん、他の医療に関わる職業の学習も行っていることで、様々な知識を得ることができそうだと感じました。同じ伊丹西高出身で総合ヒューマン類型だった在校生の方から、高校生の間にやっておいた方が良かったことや、受験勉強の仕方、面接の情報などを詳しく聞くことができ、今からでもできることがたくさんあると思いました。

今回の講義で、医療に関わる仕事は医師や看護師だけでなく、理学療法士や臨床検査技師、診療放射線技師などたくさんの仕事があることを知り、自分の視野が広がりました。医療者として大切なことは、確かな「知識・技術」を持っていることだと改めて思いました。また、医療者になった後も勉強を続けなければならないので、向上心と継続力が求められることを知りました。また、医療者として人のために働きたい、やりがいのある仕事をしたい、と思うことが大切だと分かりました。最善の治療を行うためには、コミュニケーション能力と、相手の立場になって物事を考える人間力が求められることも知りました。怪我をした時に行うリハビリテーションは、元気だった状態に戻すことだと思っていましたが、本当のリハビリは「元の状態に戻す」ことではなく、「適した状態に戻す」という意味だと分かりました。また、高校時代にやるべき勉強は、理系と文系をバランスよく学習することだと先輩から教えてもらったので、これからは苦手な教科もバランスよく取り組んでいこうと思います。

◎ 9月7日(木)

「校外学習事後学習(発表)」

担当:本校教員

◇内 容 大学の施設見学・体験授業等を通して、学んだこと、感じたことを発表する。  
(園田学園女子大学または甲子園短期大学または森ノ宮医療大学)

◇評価項目 ①内容 ②構成・わかりやすさ ③声の大きさ、抑揚 ④姿勢・態度 ⑤分量と時間(1人2分)

《発表の様子》



《生徒の感想》

今回、大勢の中で発表をしたのでとても緊張しましたが、何も見ずに前に立って発表することで、少し自分に自信を持つことができました。また、練習の時にでてきた言葉が本番になると焦って出てこなくなってしまったので、練習の時から人の前でスピーチすることが大切だと思いました。さらに、発表する際には丁寧な言葉遣いをしなければならないのですが、話し言葉が出てしまったので、気を付けていきたいです。

練習しても、皆の前に立って発表するとなると緊張してしまい、何を言うか忘れてしまいました。まだ発表することに全然慣れていないと思いました。これから、たくさん発表する機会があると思うので、今まで以上に練習をしていきたいと思います。特に速さや声の大きさやトーンなど、次は、今回の反省を活かしてスラスラと発表できるようにしたいと思いました。

他の人の発表を聞いて、同じような内容を話していても話し方や態度などで印象が違うことに気が付きました。大きな声で話したり、ジェスチャーを入れて説明していると熱意が感じられました。そして、間を上手に利用している発表はメリハリがあり、発表者の特に強調したい部分や伝えたいことがよく分かりました。自分が発表する際には、聞き手に興味を持ってもらえるように意識したいです。それに加えて、自分が発表するときは、聞いている人が発表者をしっかり見て、うなずいたりしていると発表する側も安心して話せるのではないかと思います。これから先生の講義を聞く際に、反応しながら話を聞くことや、最後までしっかりと話を聞くことを意識して講義を受けたいと思います。

今日の発表は、三つの大学で学んだことだったので、同じ大学を題材に発表している人もたくさんいましたが、発表内容が全然違っていたり、同じ内容でも言葉選びが違って、感じ方が異なる表現になっていたりして、とても勉強になりました。私もよりよい表現方法を選び、もっと分かりやすい発表にしたいと思いました。

自分の発表と他の人の発表を比べてみて、私は棒立ちで前を向いて発表していました。ですが、他の人はみんなに視線を配っている人や「一つ目、二つ目」の身振りや手ぶりをつけている人がいました。それがあるとないのでは分かりやすさが違うなと感じました。また今回の発表では緊張して、早口になってしまうけれど、周りに聞き取りやすく発表するにはゆっくりと。ジェスチャーを入れた方がいいと分かりました。



◎ 9月28日(木)

「校外学習事後学習(発表)

／校外学習事前学習」

担当:本校教員

- ・10月18日(水)実施の校外学習「大手前大学国際看護学部 施設見学および体験学習」に関する説明
- ・10月26日(木)実施の大手前大学校外学習の「事後学習(発表)」の要項についての説明
- ・9月28日(木)実施の「事後学習(発表)」の続き

《発表の様子》



《生徒の感想》

今回、園田学園女子大学で学んだことについて発表しました。私が教育学部の3つのコースについて述べた時にメモを取る人が多かったです。なので、発表では細かい情報を伝え、相手が分かりやすいように簡潔にまとめることが大切だと感じました。また、身振り手振りをして発表している人がいて、とても分かりやすかったので、今度は相手から見て分かりやすいような発表をしていきたいです。頑張ります。

他の人の発表を聞いて、同じような内容でも話し方や態度などで印象が違うことに気が付きました。大きな声で話したり、ジェスチャーを入れて説明していると、熱意が感じられました。そして、間を上手に利用している発表はめりはりがあり、発表者の特に強調したい部分や伝えたいことがよく分かりました。自分が発表する際は、聞き手に興味を持ってもらえるような発表を意識したいです。それに加えて、いざ自分が発表する立場で考えると、聞いている人が発表者をしっかり見ていたり、うなずいたりして発表する側も安心して話せるのではないかと思います。これから先生の講義を聞く際に反応しながら話を聞くことや、最後までしっかりと話を聞くことを意識して講義を受けたいと思います。

今回初めてヒューマンの講座に参加し、メンバーの発表を見ての感想は、それぞれの発表が要点を2分間におさえられていて、且つ構成も聞く人にとって分かりやすく、伝えたい内容を正確に伝えられていると感じた。自身では訪れたことのない大学も、メンバーの発表で、よく知った気になれるほど詳しく内容が伝わった。今後、自身も発表があるので、今回の発表を参考に自分に取り込んで自分らしい発表ができるようにしたいと思いました。

11人の発表を評価させてもらったが、11人とも皆が高レベルな発表で驚いた。たった半年の差がこんなにも大きいと相当頑張らなければ到底追いつけないと感じた。話すテーマは皆、同じなのに、体験で感じたことや学んだことはそれぞれ違うので、自分が体験して難しさを感じたり、学びを身につけている感覚になった。それほど発表者の話し方や文章構成が整っており、聞きやすいスピーチだった。私は次回発表なので、丁寧な言葉遣いと整った文章構成、姿勢や声の大きさ、時間配分に気をつけて発表しようと思う。

◎ 10月19日(木)

「大手前大学 国際看護学部

施設見学及び体験学習」

担当:大手前大学 国際看護学部

藤井 ひろみ先生, 土谷 僚太郎先生

◇国際看護学部、看護師についての説明(藤井先生)

◇成人看護について体験授業(土谷先生)

◇施設見学(実習室、図書館、食堂など)

《講義の様子》



《生徒の感想》

私は大手前大学の方からのお話を聞いて、人と関わる仕事で大切なことを学ぶことができました。一つ目は、色々な経験をするのが大切ということです。看護という仕事では、患者さん一人ひとりに全く違う症状があり、その人ならではの意志があるため、それらに寄り添っていく難しさがあります、そのため、大手前大学では国内だけでなく海外での医師、看護師、患者と関わり、実際に体験することで、その人に最適な治療ができるよう学びます。二つ目は、人の一生に関わるということです。病気の方の治療をすることだけが仕事ではなく、病気を背負ってこれからの人生を歩むためのサポートをすることが看護の仕事の本質であることを学びました。人と関わる仕事をする上で、今だけでなく、その人にとって未来の使命も果たす仕事の重さを深く実感しました。最適な支援をするためには、科学的な根拠に基づく知識で判断しなければならない上に、その人に対して責任を持つことが重要だと考えました。

大手前大学国際看護学部の施設見学や体験授業を通して、グローバル化しているこの世界に適している大学だと感じました。特に私が驚いたのは、海外へ実習に行くということです。そのことで、海外の人々とのコミュニケーションの取り方も医療と一緒に学ぶことができたり、日本と違った治療方法も学ぶことができたりすると考えると、利点ばかりだと感じました。体験学習で、脳梗塞の方の映像を見て話し合った時に、食事を手伝うだけではなく、その方が一人で食事をできるように看護師が支えることによって、その人にとっての嬉しさや生きがいになるということが分かり、大変勉強になりました。私はますます看護師になりたいという気持ちが大きくなってきたので、人の気持ちを考えることができる人間に成長したいと思いました。

今回の大手前大学では、国際看護学という新たな分野を学習することができた良い機会でした。一度はコロナ禍で海外との関わりが急激に減少した日本ですが、コロナ対策の緩和により、さらにグローバル化が進み、国際看護という分野がどれだけ大切になってくるのかを知ることができました。また、国際看護の「国際」は、ただ国外との関係を示しているのではなく、ジェンダーや宗教など、国内でも生まれる人々の考え方の多様性も同時に表していると聞き、より国際看護に興味湧きました。成人看護の体験授業では、考えることが重要となる看護だからこそ、自分たちで患者さんの状態からどのような不便さが予測され、どのような改善をできるのかをグループで考えることで、様々な視点から物事を見ることの大切さを知りました。さらに、不便さや改善点だけでなく、ビデオを見るだけでは分からない、患者さんの心の状態まで考えて対応することで、よりその患者さんに寄り添った看護につながると考えました。そのためには、患者さんがどれだけ大変そうにしているか、看護師が全部手助けするのではなく、あくまでサポートをしてあげるといった考え方を常に念頭においておくことが大切だと感じました。

◎ 10月26日(木)

「校外学習事後学習(発表)」

担当:本校教員

◇内 容 大手前大学の施設見学・体験授業を通して、学んだこと、感じたことを発表する。(1人2分)

◇評価項目 ①内容 ②構成・わかりやすさ ③声の大きさ、抑揚 ④姿勢・態度 ⑤分量と時間

《発表の様子》



《生徒の感想》

今回の発表を聞いて、新しくヒューマン類型に加わった人は、発表する文章を考える時間や練習する時間が短かったのに、とてもスラスラ発表していてすごいと感じました。また、身振り手振りをつけることによって、一番伝えたい部分や大切にしたい部分がとても良く伝わってきたので、私も次回から相手により理解してもらえるようにするかを考えたいです。覚えた文章をただ言うのではなく、手振りで表現したり、相手への伝え方についてもっと学んで工夫した発表になるように頑張ろうと思いました。

今回、他の人の発表を聞いて、発表時間2分に近い発表ができている人は落ち着いていて、言いたいことを考えながらスムーズに発表ができていく人が多いことに気がつきました。私が一番改善したい部分が発表時間なので、今回発表していた人達をお手本にしながら、ゆっくり落ち着いて話すことを意識したいです。また、身振り手振りや表情をつけて発表すると相手に伝わりやすくなり、声の強弱を意識したり、気持ちを入れたりすることで、特に伝えたいところが分かりやすくなると思いました。今回の発表でできなかったことを、次の発表までに改善するために、普段の発表の時も気をつけて取り組みたいです。

自分の発表を振り返って反省すべき点が2つあった。1つ目は「伝える」意識だ。東野先生もおっしゃっていたが、丸暗記した文章を言うだけでは何も伝わらない。自分が本当に言いたいことを素直に伝える。そうすると自然に声に表情がついて姿勢・態度が変わってくると思うので、次は伝えたいキーワードだけを頭に入れて発表に挑もうと思う。2つ目は、声の大きさについて。良いことが言っても声が小さければ伝わる以前に聞こえない。緊張をコントロールして「自分」の発表ができるようにしようと思った。

ヒューマンでの最初の発表ということもあり、少し緊張したが、リラックスして発表することができた。具体的な内容に関しては、伝えたいポイントだけをしっかり押さえて発表に臨んだ。そのため、細かい部分が抜けていたりもしたが、伝えたいものは発表の中に入れることができたので、おおむね満足できる発表になったと思う。次回は途中で噛むことのないようにしたいと思った。

今回の発表の後に東野先生のおっしゃられた言葉がすごく心に残りました。発表は考えた文をただ全部言うのではなく、声に表情をつけたり、ジェスチャーをつけると、聞き手に伝わりやすいと聞いて、確かに、ただ棒読みの文を聞くよりも、語りかけるように話した方が心に残ると思いました。そのお話をされていた東野先生が発表においてのお手本のような話し方だったので、次の発表に活かそうと思いました。これから発表を積み重ねていく上で、少しずつ緊張にも慣れていきたいと思いました。

◎ 11月9日(木)

「管理栄養士の仕事について」

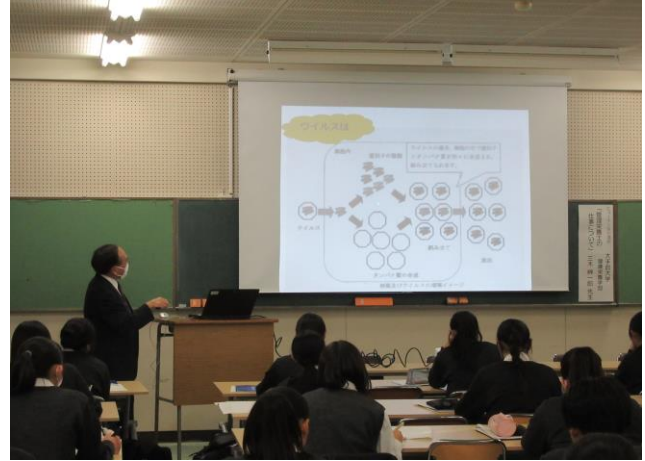
担当: 大手前大学 健康栄養学部

三木 紳一郎先生

◇管理栄養士の資格と就職先について

◇模擬授業「食品衛生学」

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

今回の特別講座では、管理栄養士の仕事内容や食中毒について学びました。私は管理栄養士の仕事は、小中学校や病院などで栄養バランスが取れた食事を考え作ることだと考えていました。しかし、調剤薬局やドラッグストアなどで栄養相談なども行っていると初めて知りました。食中毒については、発生時期が夏に多いのではなく、ノロウィルスが原因で冬の時期に事件数が多いことや、一年間に1万人前後の食中毒事件が発生していると初めて知りました。そして、牡蠣に含まれるノロウィルスは揚げてカキフライにしてもノロウィルスに感染することが、今回の講座で一番驚きました。今回学んだこれらの知識をいかしていきたいと思いました。

今回の「管理栄養士」という仕事は、私にとって身近な仕事でした。なぜなら私の母が管理栄養士の資格を持っていて、十年ほど前まで管理栄養士として働いていたからです。その時、母は病院等の医療機関で栄養指導を主にしていました。母に管理栄養士について聞くと「どうすれば入院している人が楽に食べられるのかを考えるのは発明家のように、人の為に寄り添って働ける良い仕事だ」と言っていました。しかし、今回のお話を聞いて、アニサキスやノロウィルスなど食中毒についての知識も必要で、人の命を助ける大切な仕事であると知りました。私はフグは毒があることを知っていましたが、生カキにも細菌がいるのは驚きました。食べるのが少し怖いと思いました。私の親族もアニサキスで病院に搬送されたので、身近なことでもあるので日頃からもっと気をつけなければいけないと思いました。最後に、私は食べることが好きなので、これからも安全においしく食べるためには管理栄養士という道も選択肢の一つに良いと思いました。また私は好きなものだけを食べてしまうところがあり、栄養が偏りがちなので自分が管理栄養士となって自分の栄養について考えてみたいと思いました。

今回は管理栄養士の仕事について学びました。私は、講義が始まる前までは管理栄養士と聞いてもどのようなことをするのか全く分かりませんでした。講義を受けていく中で、多くの人の栄養指導、給食管理、栄養管理などといった難しい仕事をしている方たちだと知ることができました。また、スポーツ選手の栄養サポートをすることもあって重要な役割を担う仕事でもあるのだと思いました。そして、現在の日本での食中毒の患者数が1~2万人いることにとっても驚きました。日本で食中毒になる人がこんなにもいるとは知りませんでした。私も知らないうちに食中毒の原因となるものを食べてしまうかもしれないので、自分が食べるものは気をつけていきたいと思いました。さらに昔は鶏肉の中などに多くいるカンピロバクター(細菌)による食中毒が多かったですが、現在は魚などに含まれているアニサキス(寄生虫)による食中毒が多いことを知ったので、魚に特に気をつけたいと思いました。こういった食中毒を防ぐためにも管理栄養士がいると知り、とても偉大な存在だと思いました。

◎ 11月16日(木)

「伊丹市子育て支援センターの役割と遊びを通じた交流体験」

担当:伊丹市子育て支援センター

道添先生, 大田先生

◇「子育て支援センター」ってどんなところ？

◇親子遊び(体操)を体験

◇絵本の読み聞かせ

◇事業紹介(わくわく)と8か所の子育て支援拠点

◇カードチェンジゲームを体験

《講義の様子》



《生徒の感想》

今回は、伊丹市子育て支援センターの方に来ていただき、子育て支援の大切さを学んだり、親子遊びの体験をしました。まず、子育て支援は、親御さん同士で関わることができ、人と話をする中で悩みを抱えている親御さんの気持ちを軽くすることができる大切な支援ということ学びました。また、子育て中の保護者へのサポートを行う「子育てコンシェルジュ」もいるそうで、子育てをしている方々を支えている活動をたくさん行ってすごいと思いました。次に、皆で円になって手遊びをしました。子どもだけでなく親御さんも楽しめるようになっていて、私自身もとても楽しく参加することができました。そして、こぶた、たぬき、きつね、ねこチームに分かれてカードゲームをしました。ルールはとても簡単で、カードを自分が決められた色に変えていくだけです。私はきつねチームだったのですが、見事一位になることができ、とても嬉しかったです。最後は絵本の読み聞かせをしてくださいました。とても懐かしい本で、子どもの気持ちになって楽しむことができました。このように話を聞いたり、子育て支援がどれほど大切なのか知ることができたので、とても良い経験になりました。

今回、子育て支援センターのお話を聞かせていただきました。今、核家族が増えている日本で、子どもに対する気持ちが不安やプレッシャーになる人も増加しており、それらを解消する役割があるということが、とても心に残っています。子どもが関係する悲しい事件を減らすために子育て支援センターという場所があることが、たくさんの人に広まってほしいと思いました。悩みの共通点を持った親同士が出会える機会があることも知りました。もし私が将来、子育てをすることがあれば、悩みを一人ですべて抱え込むのではなく、子育て支援センターがあることを覚えていて、相談に行きたいと思いました。

今回の講座は主に体験だったので、自分が幼児たちと同じ遊びをすることで得た学びがたくさんありました。私達が体験した遊びは、周りの人との協力や交流が大切になってくるものだったので、遊びを通して楽しく交流することができました。また、子どもたちの交流だけでなく、親同士も仲を深めるきっかけにもなっており、全員が楽しめる空間をつくることのできるのが良いと思いました。ゲームが楽しかったのはもちろんですが、ゲームの説明をくださった道添先生と大田先生の言葉遣いもとても素敵だと思いました。私達を幼児として説明してくださったのですが、話すスピードがとてもゆっくりで分かりやすかったです。そして簡単な言葉を選んで抑揚をつけて話すことで、小さい子どもにも理解しやすい説明になっていました。勝ったチームはタンバリンを叩くことができたり、皆の前で名前を言ったりしました。幼児は皆の前で何かをしったり目立ったりすることが好きなイメージなので、その特徴に寄り添ったゲームなので、より楽しくなると思いました。最初から最後まで本当に楽しい講義、体験でした。

◎ 11月30日(木)

「校外学習事前学習」

担当:本校教員

- ・12月12日実施の校外学習「聖和短期大学 施設見学および体験学習」に関する説明
- ・1月11日、18日実施の、「ヒューマン特別講座で学んだこと(発表)」の要項についての説明

◎ 12月12日(火)

「聖和短期大学 施設見学及び模擬講義」

担当: 聖和短期大学

竹内 伸宜先生, 堀井 康利先生, 豊 智子先生

- ◇大学説明 聖和短期大学について、大学生活について
- ◇学内見学 おもちゃとえほんのへや、図書館、リプラ、ミュージックラボ、聖和の森など
- ◇模擬授業 「かかわりの中で育つ心」(竹内伸宜 先生)

《講義の様子》



《生徒の感想》

「かかわりの中で育つ心」という講義を聞いて、驚いたことがたくさんありました。1つ目は、赤ちゃんは生後8ヵ月までは物が見えなくなると存在なくなると考え、生後8ヵ月を過ぎると物が隠されても壁や板の後ろにあるということが分かるということです。生後8ヵ月前後で赤ちゃんの感じ方や考え方が変わると知り、赤ちゃんはとても面白いと思いました。2つ目は、赤ちゃんは人を見るだけではなく、表情で響き合うところです。赤ちゃんは大人の顔を真似します。例えば、大人が顔を膨らませると、赤ちゃんもその顔を真似して同じ顔をしします。これを共鳴動作といいます。共鳴動作をすることで他者からやりとりを引き出す力も持っています。赤ちゃんには面白いところがたくさんあったので、赤ちゃんについてもっと知りたいと思いました。

今回の模擬講義では、乳児の心の発達について学ぶことができました。生後8ヵ月になる前の赤ちゃんの動画を見て、私はとても驚きました。ガラガラが体に触れている感覚はあるはずなのに、視覚に入っていないという理由から存在しないものという認識になっていたからです。他にも、象のおもちゃの実験では8ヵ月になる前と後で赤ちゃんの反応が変わったのがとても興味深かったです。そして赤ちゃんは短い間にとっても大切な学びを得ていくのだと思いました。ジョンソンとモートンの実験では、赤ちゃんは視力が良くないにも関わらず、他の人の顔を見て共鳴動作をしてしまう赤ちゃんは、無意識にどんどん学んでいっているのだと思います。今回、模擬講義を受けて、心理学に興味がわきました。

今回の講義では、かかわりの中で育つ乳児の心について学びました。私が一番心に残っていることは、乳児の認識は他者と関わる中で、徐々に育っていくということです。乳児は、お父さんやお母さんの表情を見て育ちます。そのため、お母さんやお父さんが暗い表情をした時は、乳児も徐々に暗くなっていき、明るい表情をした時は、乳児も明るい表情をします。このように毎日一緒に過ごしていくにつれ、乳児は様々な気持ちや表情を身につけていくことが分かりました。もう一つ心に残ったことは、乳児を支えるためには、理想の対象という認識を乳児に持たせることが大切ということです。乳児は親の振る舞いを見て演じて動作や表現を取り入れます。そのため、乳児にライバルという認識を持たれてしまうと信じてもらえなくなることが分かりました。乳児と関わる時には優しい表情で優しく接することが大切だと思います。小さな子どもと関わる時には、今回の講義を思い出して優しく接したり、表情を明るくしたりするなど、学んだことを活かして接しようと思います。そしてどんな反応が返ってくるかを楽しみに接しようと思いました。

◎ 1月11日(木)18日(木)

「ヒューマン特別講座で学んだこと(発表)」

担 当:本校教員

◇内 容 ヒューマン特別講座で学んだことを発表する。(1人2分)

◇評価項目 ①内容 ②構成・わかりやすさ ③声の大きさ、抑揚 ④姿勢・態度 ⑤分量と時間

《発表の様子》



《生徒の感想》

前回の発表の時、先生から「伝える意識が大切である。だから文章を丸暗記しないで、伝えたいキーワードだけを覚える」というお話をしていただいた。そのお話を参考にキーワードだけを覚えて発表に挑戦してみたが、頭の中でそのキーワードを伝える文章を組み立てることがうまくいかなくて、途中、つまってしまった。臨機応変さが足りないだけでなく、単純に語彙力が少ないと感じた。他の発表者の中には高校生らしい言葉遣いや文章構成を組み立てている人もいて、自分には言葉の力がもっと必要だと感じた。

以前の発表では覚えたことを皆に伝えることが精一杯でしたが、今回の発表では自分の伝えたいことを皆により伝えるために、視線を左右しっかりと見ながら発表することができて良かったです。また、常に心掛けていたことは、大きな声で発表したり、緊張しすぎないように笑顔で発表したりすることです。これらを意識しながら発表することができました。これからも意識しようと思いました。

私は今回の発表を通して、以下の二つのことについて学びました。一つ目は、伝えたいことをまとめるということです。全てを覚えることが正しいのではなく、アイコンタクトや身振りで伝えるということが大切だと思いました。二つ目は、周りの良いところを取り入れるということです。自分自身を評価する大切さを実感し、今の自分に足りていないところを探し、補っていかうと思いました。

前回の発表で悔いが残っていたので、今回の発表では前回以上に準備をしました。そうすると、前に立って皆の顔も見えて緊張しましたが、考えなくてもスラスラと言葉が出てきました。しっかり準備すると、発表は楽しく感じられるものなのだと初めて体感しました。今後もこの経験を活かしたいです。

他の人の発表を聞いて、同じ大学や内容を話していても、強弱のつけ方や態度で印象が変わることが分かりました。大きな声で話していたり、ジェスチャーを入れて説明していると、より熱意が感じられました。これから自分が発表する時は、間や強弱を意識して、聞き手に興味を持ってもらえるような発表をしようと思います。そして、自分が他の人の発表を聞いている時は、うなずいたり、目を見て話を聞くことを意識することで、発表する人も安心して発表することができるのではないかと思います。

今回の発表の聞き方はとても良かったと自負しています。例えば、共感できたところでうなずいたり、発表者と目を合わせたり、発表後の拍手を誰よりも大きくすることができました。また、発表後に席に戻ってきた時に「お疲れ!」「めっちゃ良かった!」など一言も伝えることができました。



◎ 1月18日(木)

「1年のまとめと来年度に向けて」

担当:本校教員

《1年間の反省・感想・印象に残ったこと》

私はこの1年間のヒューマン特別講座を通して学んだことは、コミュニケーション能力の大切さです。どの講座でもコミュニケーションは大切だと言っていました。例えば、看護師は患者さんはもちろんですが、そのご家族とも、患者さんの状況を伝えたりサポートしないといけないので、コミュニケーション能力の大切さを改めて感じることができました。もしコミュニケーションが欠けていたら、伝えたいことが伝わらず、患者さんやそのご家族も不安になると思いました。反省としては、先生の話に集中しすぎてしまい、メモを取る事があまりできなかったため、話を聞きつつメモを取る練習をしていきたいと思えます。

私が一番印象に残っていることは、森ノ宮医療大学の校外学習です。私は今まで看護学部と聞くと看護師になりたい人同士で助け合いながら勉強するというイメージでしたが、この大学では他の学部と一緒にカンファレンスをする事を知って、一つの学部だけでなく、複数の学部が集まって一緒に学んでいけるのはすごいことだと思いました。

私が総合ヒューマン類型に入ったのは途中からで、右も左も分からない状態のまま初めての発表に臨むことになったのですが、まずは文章を2分間にまとめるという壁に当たりました。要点だけを簡素化すると発表時間が短くなってしまったり、逆に話したい内容をすべて発表すると2分では足りなくなってしまうからです。次に心配だったのは、発表時の雰囲気です。冷たい視線を送られるのかと不安が募りましたが、実際に発表してみると、皆の視線があたたかく、とても発表しやすい雰囲気、リラックスしながら発表することができました。

私はヒューマン特別講座でとても多くのことを学びました。私が一番興味を持っている保育分野では、子ども達と関わることの難しさを知り、どうしたら園児一人一人の個性を活かせるかということ考えることができました。その中で印象に残った体験は、園田学園女子大学の附属幼稚園に行ったことです。講義とは違い、実際に子ども達と関わることで、保育士、幼稚園教諭という仕事がいかに周りの状況を見ておくことが大事なる仕事なのかということを知りました。実習を通して多くのことを学んでいきたいと思えます。保育以外の分野でも新しい学びを得ることができました。

私が特に心に残っていることは、看護の講義で学んだことです。今の社会では、医師や看護師、専門職が同じ立場で病気と向き合うチーム医療が大切になっているということです。チーム医療を行うことで、より深く目標をたてることや、患者さんの求めている生活を送るための援助ができると分かりました。また、看護とは、患者さんの退院後、自立できるように入院生活を支えていくということだと学びました。この一年間で、自分のなりたい職業や、その職業が人とどう関わる仕事なのかを学ぶことができました。また、人とのコミュニケーションの取り方や接し方など、将来のためだけでなく、高校生活で実際に使えることも学ぶことができました。

私は、人とコミュニケーションをよくとれるようになりました。人と関わるのが苦手だったため、大きく成長することができました。学びを通して人と関わる仕事では共通している大切なことがいくつもあることにも気づくことができました。人は一人では生きていけない、周りの人の支えがあるからこそ今の自分があって今の環境に巡りあえているのだと思えます。私はヒューマン特別講座を通して人と人のつながりの大切さを学ぶことができました。

この一年間、外部講師からのお話や、さまざまな大学の講義や施設見学を受けて、普段なら知ることでもできないお話や体験をさせてもらい、自分がとても成長したように感じました。印象に残っていることは、園田学園女子大学で幼稚園に行き、子どもと触れ合ったことです。実際に現場に行くことで、保育士の現実を知って、ただ子どもと触れ合って成長を見守るだけではないと感じることができました。たった1回現場を見ただけで学べることはたくさんあると気づき、それ以降は、大学見学をする際に、小さなことでも自分の目でしっかり見ようという意識が身につきました。そのおかげで、細かいところまで気づくことができ、より理解を深めることもできました。この学びを自分の強みにしていきます。

## 《来年度に向けての意気込み》

---

来年は、ヒューマン基礎の授業になり、実習や講座が増えます。また、自分が持っていない知識をたくさんつけていきたいと思います。そして、スポーツトレーナーになるための知識はもちろん、コミュニケーションを自分からとっていきこうと思います。いろいろな方と関われることに感謝を忘れず、何事にも一生懸命取り組んでいきたいです。2年生では勉強と部活動の両立や、スポーツトレーナーになるために必要なことを考えていきたいと思います。勉強面だけではなく、人としても成長していきたいです。

---

来年は、今年よりも講座の回数が増えるので、いろいろな先生の話聞いて自分の進路の幅を広げていきたいです。また学校生活では、コミュニケーション能力や観察能力を身につけていきたいです。コミュニケーション能力を身につけるためには、いろいろな人と関わっていくことが大事だと思いました。観察能力を身につけるためには自分のことだけではなく、周りのことを見ないとだめだと思いました。もし、困っていたり助けてほしいような人には、言われてからではなく自分から行動したいです。

---

2年生では、受験に向けて本格的に勉強に力をいれつつ、新しい人達と最高の思い出をつくりたいです。たくさんオープンキャンパスに行き、自分に合った大学を見つけ、学力的な問題がでないように苦手科目を中心に勉強しようと思います。学校生活を楽しんで、そして絶対に後悔しないように勉強も行事も両立できるように頑張りたいです。

---

私は将来、子どもから高齢者までの方をサポートするような仕事をしたいと考えています。そのためには、ヒューマンの講座を通して人との関わり方や職場の雰囲気、実際に仕事をしている方のお話を聞き、積極的に学んでいきたいと考えています。外部講師のお話や、体験学習などを通して、さまざまな世代の方とのコミュニケーションの取り方を身につけ、自分の強みにしていきます。子どもや高齢者と接していく上で注意する点や、またどうしたら楽しいと感じてもらえるかを自分でしっかりと考え、信頼されるような人になっていきます。細かいところも気にかけていき、周りを見られるように頑張りたいと思います。

---

来年度は積極的に質問したり、発言したりしていきたい。自分から積極的に行動していくことで、周りの人も行動や発言しやすい環境をついけていきたい。そして、自分の将来の夢のために頑張るのはもちろん、興味のない分野にも精を出して取り組んでいきたい。さまざまなことを頑張り、選択肢をもっと広げていきたいと思う。そして来年度は、実習や体験が増え、本格的にヒューマンの取り組みが広まっていくので、緊張せず、いろいろな人と話し、交流を深めたい。

---

## 《進路実現に向けて、これからの取り組み》

---

現時点では、ヒューマン入学時から興味のある幼稚園教諭になりたいと考えていますが、ヒューマン特別講座を通して保育分野だけではなく、教育分野にも興味を持ち始めました。これからの講義等で、自分にはどの分野が向いており、どの職業を目指すのが最適なのかということを決めていきたいです。将来の夢が定まったら、大学選びを慎重に行い、自分に合った進路が選べるように学習に取り組んでいきたいです。

---

看護師は適応能力が試される場面が多くあると思います。例えば、患者さんの容体が急変し、イレギュラーな対応をする時や予想外の状況でも、優先順位をつけ、考える力が必要とされると思います。私は、自分の考えを伝えることが苦手です。でも、看護師にとっては必要なことなので、どんな場面でも自分の意思をもち、伝えられるようになりたいです。

---

私は看護職の中でもフライトナースを目指したい。フライトナースはドクターヘリで現場に向かい、その場で冷静に判断して処置をしなければいけない。そして患者さんを救うためには、医師やパイロット、消防士や警察官とのコミュニケーションが要になってくる。行動力や判断力、臨機応変さがあっても、コミュニケーションがとれないと、その力は発揮できない。今は、挨拶一つであっても緊張して自分から言えなかったり、目を合わせられないことがあるから、まず挨拶と返事をしっかりできるように努力する。

---